

# 子どもの貧困対策への動き

平成25年6月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が成立し、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備し、教育の機会均等を図るために、子どもの貧困対策を総合的に推進する

ことが定められました。また、その後制定された「子供の貧困対策に関する大綱」の中では、都道府県及び市区町村は、法律と大綱に基づき、国と協力のうえ、地域の状況に応じた施策を策定・実施することも義務づけられました。

そうした背景のもと、各地で公的

な取り組みの模索や民間による子ども食堂の実施など活動が広がっています。また、子どもの貧困問題を取り上げた講演会やシンポジウムも各地で開催されています。そこで今回郡山で開催されるシンポジウムをご紹介します。

## 子どもの貧困・教育支援シンポジウム「Kids' Day JAPAN in 福島」

日時: 11月29日(火) 13:30~16:30 会場: 郡山市中央公民館(勤労青少年ホール) 多目的ホール

### 第1部 各地で活動する教育支援団体による事例紹介

- ① NPO法人キッズドア: 学習支援について
- ② NPO法人ビーンズふくしま: アウトリーチについて
- ③ 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン: 学校外教育パウチャーについて
- ④ NPO法人寺子屋方丈舎: フリースクールについて

### 第2部 パネルディスカッション「子どもの貧困の現状と教育支援の多様性」

ファシリテーター: NPO法人アスイク代表理事 / 協議会幹事 大橋雄介氏  
パネリスト: NPO法人寺子屋方丈舎、NPO法人ビーンズふくしま、伊達市/国見町教育委員会スクールソーシャルワーカー、しんぐるまざあず・ふぉーらむ福島

## これからの活動予定

- 11月20日(日)運動会(子どもの貧困対策支援)
- 11月23日(水)オープンハウス(フリースクール)
- 11月26日(土)運動会(うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト県中) 中高生ママday(みんなの家@ふくしま)
- 11月28日(月)みんなの家カフェ(みんなの家@ふくしま)
- 12月23日(金)クリスマス会(うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト県中)



※イベントの詳細につきましては、ビーンズふくしま事務局までお問い合わせください。

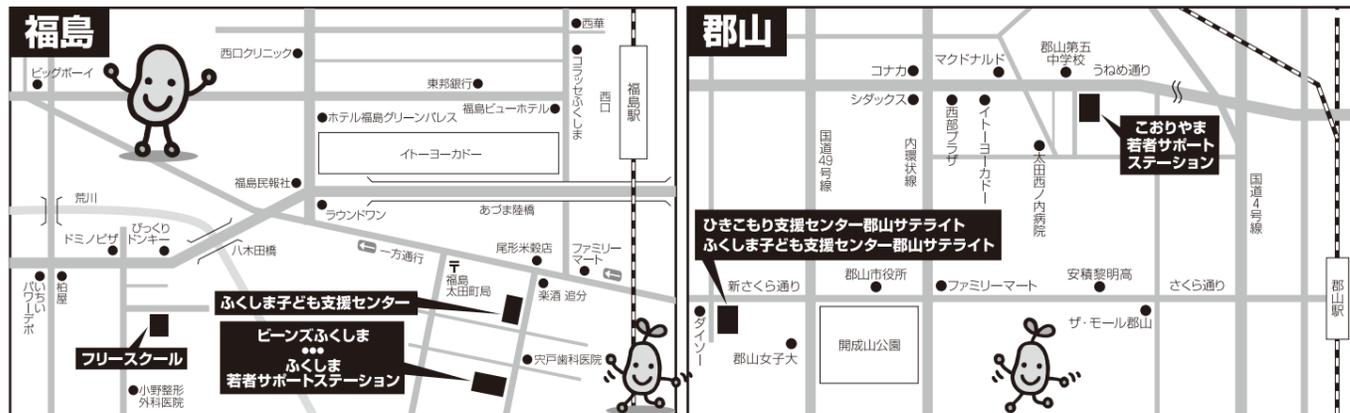
## 新人紹介

心機一転福島での生活を始めました。毎日楽しく頑張ります。  
ふくしま若者サポートステーション 福島県ひきこもり支援センター 金田 康佳



## 編集後記

紅葉が福島にも訪れ、時折風で舞い上がる落ち葉を目にし、季節の変化を感じていると、今年も残すところあと1か月だと気づきました。みなさんの今年の目標は達成されたでしょうか。日々課題解決のために挑戦し、成長し続けることは難しくもあり、やりがいもあると感じています。また、朝夕の冷え込みも少しずつ厳しくなってきたので、体調管理にも毎日気をつけていきたいと思っています。



●ビーンズふくしまのホームページ はこちらへアクセス → <http://www.beans-fukushima.or.jp/>

# ビーンズ通信 Vol.78

●発行日/2016年11月10日

●発行元 特定非営利活動法人 ビーンズふくしま  
〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5 2F  
TEL&FAX 024-563-6255  
URL <http://www.beans-fukushima.or.jp/>  
E-mail [info@beans-fukushima.or.jp](mailto:info@beans-fukushima.or.jp)

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

# 不登校って何だるろう？

平成27年度の長期欠席者(30日以上)の欠席者のうち、「不登校」を理由とする児童生徒数は、小学校2万7千人(前年度より1,700人増加)、中学校9万8千人(前年度より1,400人増加)であることが、文部科学省から発表されました。



雇用環境の変化、格差の広がり……一方で、ゲームやネットの普及……子どもたちが育つ環境は、容赦なく変化してきました。そうした社会背景の中で、子どもたちは学校に行きにくさを感じてきたのです。

## 不登校のとらえ方の変化

当初、学校へ行けない子どもたちに対して、その原因を子ども本人や家庭に求めて

きましたが、1992年文部省「学校不適応対策調査研究協力者会議」の報告「登校拒否問題への対応について」が出され、「登校拒否は病気じゃない」という方向が確認され、「登校拒否はどの児童生徒にも起こりうるものである」という視点に立ってこの問題をとらえていく必要がある」という方針が出されたのです。

不登校は「問題」なのではなく、学校に行けないという「状態」であること……その視点に立ったとき、不登校の原因探しが必ずしも解決につながるわけではなく、今の子どもの状態はどうか、今この子にとって必要なことは何か、そのために何をしなければならぬのか、を考えていくことが必要であることの理解へとすすみました。

## フリースクールという学びの場

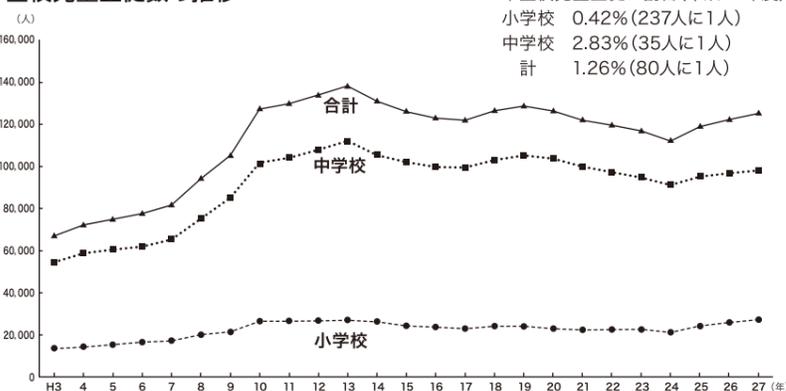
何をしていくのか……実は、欧米では早くから、様々な学びの機会が保証されています。いわゆるオルタナティブ教育です。既存の公教育とは異なる学びの場で、欧米のシュタイナー教育やホームスクール、アメリカ発祥のチャータースクールなどがありました。

日本では学校へ行けない子どもが増える中、1985年東京シューレが学校外の子どもたちの居場所、学び・交流の場としてスタートしたように、1980年代以降、不登校の子どもたちの居場所や「フリースクール」が各地で立ち上がっていききました。

そうした動きの中、フリースクールビーンズふくしまは、1999年9月9日にスタートしたのです。

そして、昨年5月、不登校の子どもや夜間中学に通いたい人の就学機会を確保する法案の成立を目指す超党派の議員連盟から、学校外の義務教育法制化の試案が発表されました。その後、様々な意見が交わされ、残念ながら今年3月に法案は見送られましたが、学校以外にも学習の場があることが認められたことは、評価すべき大きな動きであったと思います。今後、不登校の子どもたちの学びの場であるフリースクールの理解へとつながっていくことを期待します。

●不登校児童生徒数の推移



# フリースクールで大切にしていること

不登校の子どもたちの居場所として

1999年9月9日にスタートしたフリースクールビーンズふくしま。

子どもたちはフリースクールの中で、様々な活動を通して何を学んでいるのか、フリースクールは何を大切に活動しているのかを、あらためてお伝えしたいと思います。

## 自己肯定感に繋がる、安心できる「居場所」

皆さんには、「居場所」がありますか？「自分はここにいていいんだな。」「ここにいて安心するな。」そんな風に所属感を感じることのできる場所、それが「居場所」です。こんな居場所があると、私たちは安心できます。そして居場所がある自分に自信を持てます。自分を肯定することができます。逆に安心して居られる居場所を感じることができないと、不安な気持ちになってしまったり、時には自分を否定してしまいたくなる時もあるかもしれません。それは、子どもたちも同じです。家庭、学校、友達、いろんな所に子どもたちは居場所を作ることができます。その1つが地域の中にある居場所です。学校に行っていない、いなくても、「地域にも安心できる場所が欲しい」「学校や家庭以外の人も関わりながら普段体験できないことをしたい」と思った子どもたちが「行きたい」と思ったときに来ることができる居場所が、「フリースクールビーンズふくしま」です。

フリースクールに初めて来た子は、緊張してやってきます。初めての場所って緊張しますよね。そこから、アットホームな雰囲気に触れたり、笑顔の人や肩の力を抜いて過ごしている人と接したり、空間に慣れていくうちに、少しずつ少しずつ「ここに居ていいんだ」という安心を感じていきます。私たちビーンズふくしまは子どもたちが安心して過ごせるために、自然体で緊張しなくてもいい空間・人間関係をつ

くる工夫をしています。始めのうちは、笑顔を作ることも難しかった1人の子どもが、フリースクールに入会してから1年後、スタッフにこんなことを言ってくれました。「私、笑えるようになりました。」その後、その子は自分のやりたいプログラムに参加するようになり、そしてアルバイトをやりたいという思いを叶え卒業していったのです。安心して居場所がなければ、自信や行動しようとする力に気づくことは難しいと思います。まずは、緊張したり、気持ちを抑えたり、無理をして頑張らなくても、ホッと肩の力を抜いてその子らしく居られる居場所が必要になってくるのです。

## 人と繋がることのできる場所

子どもたちがやりたいことを見つけたり、何かに向けて動き出すには、まず土台となる「安心」が必要です。その土台の上に、自信や好奇心、人や社会と繋がる社会性を積み重ねていくのです。それは1人で積み重ねていくのは難しく、人と出会い、いろんな人の価値観を感じ、仲良くなったり、喧嘩をしたりを繰り返しながら、人との付き合い方を知り、自分という人間を知っていくのです。フリースクールは、人と繋がることのできる場所です。同年代の子ども、お兄ちゃんお姉ちゃん、年下の子や、大人の人、いろんな人がフリースクールを訪れ、みんな一人の「人」として他の「人」と繋がることができ、この人と安心して繋がったり、失敗もしながら関係を作っていくことができる場がフリースクールなのです。

## 子どもたちの主体性と自己選択

フリースクールは、火曜日から土曜日の、9時から17時の間であれば、行きたいと思った時間に行くことができ、その日どう過ごすかも子どもが決めています。そして毎週の予定も、週ミーティングの中で意見を交わしあい、自分たちで作ります。自分は今どんな気持ちで、どんな週にしたいのか。そのためにどんなプログラムを作りたいのか。自分の気持ちに気づきながら、他の子たちの意見を聞きあい、主体的にプログラムを作っていきます。「フリースクールに何時に行つて、どの企画に参加しよう。」「来週の予定でこんな案を出してみよう。」このような、自分のことを自分で決める「自己選択」を子どもたちはフリースクールの中で積み重ねていきます。そしてそれは、子どもたちが自分の生き方を選択する力に繋がっていくのです。

## 多様な学び

子どもたちが社会と繋がり、その子らしく生きていくためには、いろいろな力が必要になってきます。自分を認める力、思いを形にする力、人と繋がる力、失敗から次に動ける力。そんな生きていく力を身につけるには、多様な体験やいろんな価値観の人との出会いといった「多様な学び」の機会が必要になってくるのです。そのためにフリースクールでは、子どもたちの興味関心の幅が広がるような学びの機会を提供しています。学習、自然体験、スポーツ、表現活動などなど。日

常の中にも学びは溢れています。そんな日常や多様な体験を通して、共に学び合い、失敗も大切にしながら、成長し合っていけるのがフリースクールです。

## 子どもたちが自分らしく社会と繋がる

安心して人と繋がったり、多様なことを学べたりできる居場所の中で、少しずつ自信を取り戻していく子どもたちに対して、私たちビーンズふくしまの願いは、「子どもたちがその子らしく、人や社会と繋がり生きていってほしい」ということです。そのため、この居場所の中だけではなく、地域や外部の人とも無理なく接することのできる機会をつくっています。その1つが、資源回収の取り組みです。子どもたちが外部の事業所へ自分達でアポイントメントの電話をし、資源の回収を行います。回収作業の最中に「いつもありがとう」、「助かるよ」と皆さんに声をかけてもらったり、子どもたちが大きな声であいさつをしたり、自然に地域の方とコミュニケーションを図れる機会になっています。また、保護者の方の働いている職場を見学させて頂いたり、企業の方にワークショップを開いて頂いたりもしています。子どもたちが安心して居られる場所や人を増やし、社会や人と繋がれるように、保護者の方、地域の方、企業の方など、多くの大人たちの目で子どもたちを見守ることのできる地域との関係を作っていきたいと考えています。ぜひこんなフリースクールに遊びに来てみてくださいね。

アンケート

# 子どもたちの声

～フリースクールがわかる5つの質問～

フリースクールに通ってきている子がフリースクールをどう思っているのか、聞いてみました。

## どうしてフリースクールに来ているの？

- 安心して居られる場所だから
- のびのび緊張せずにのびのび居られるから
- 同年代の人と会えるから
- ボードゲームをしたり、雑談をしたりみんなと交流するために来ている
- 他に行く場所がないから。
- 1人である時間も大事だけど、それは家でできるし。ここだと人と会えるから。

## フリースクールの時間で好きな時間は？

- ゆっくりして居られるから日常の時間が好き。
- 人と自然と繋がれて、誰でもコミュニケーションできるボードゲームをしている時間
- 自然と生まれる雑談の時間が好き。
- イベントでみんなと共同作業している時間。
- 来週の予定を自分で決められるし、みんなと話せるから週ミーティング。自分の興味があることを知ってもらえるし、自分の世界も広がる。
- 自分が出した企画の感想が聞ける、キャンディタイム(ホームルーム)の時間。
- 好きな車を見れるから、外に行く時間が好き。
- 考えるのが楽しいから、カードゲームをしているとき。

## 今までのフリースクールの活動で印象に残っていることは？

- わらじ祭りにみんなで出たこと。疲れたけど、みんなとしゃべったり、踊ったり楽しかった。
- 普段と違う非日常を味わえるから、キャンプかなー
- 修学旅行。学校の修学旅行には行けなかったから。当日の遊園地も楽しかったけど、日程を決めていく準備の時間も貴重だった。青春の1ページを過ごしました。
- 初めて大きなイベントに参加したオープンハウスです。そこでみんなと仲間になれた気がしました。

## フリースクールに通って、自分自身が変わったと思うところはありますか？

- 自分の事が嫌いだったけど、少し好きになれました。今も嫌いなおところもあるけど、それでもいいかって思えるようになりました。自分を認められたって感じですかね。他の人と関わって、「君ってこんな人だよ」って言われて、自分を知れました。
- 頑固じゃなくなったかな。前は固定観念にとらわれてて。今も学校には行かないけど、でも、ここにいれば大丈夫って思えるようになった。他の人を見て、いろんな生き方があるなって感じた。自分の変化はわからないけど、最近入会した子も変わってきたと思う。新しいことに挑戦したり、大人っぽくなったり、自分も変わってきたらと思う。
- 人としゃべれるようになりました。最初は緊張してたんですが、ここで人と話すのは緊張しません。
- フリースクール以外でも人に声をかけられるようになった。いろんな経験をして人に慣れて、あとは人の姿勢を見てお手本にもなったからだと思う。

## あなたにとってフリースクールとは？

- 今の自分のすべて。ここでの経験が今の自分をつくってる。コミュニケーションとか、進学したいと思ったこととか。あと、自分の成長と人の成長にも気づける場所。
- 大事なところ。フリースクールがないと行くところがないからなあ。
- 生活の一部かな。当たり前に通っている場所。意識していこうと思わなくても行っている場所。
- 第2の家ですかね。雰囲気アットホームで安心して居られますからね。

